
鉾山研究会

ニューズレター No.9 2

2013年8月1日

- 1 2013年度研究大会・総会の報告 川俣修壽
- 2 2013年度の会計報告について 久保敦子
- 3 草倉鉾山の友子の墓について
- 4 企画展【坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭
鉾をめぐる視覚表現】のお知らせ 菅井益郎
- 5 「足尾銅山:世界遺産登録を推進する会で記録映像上
映 県・市・所有者、一体で取り組み訴え」(毎日新聞)
- 6 イベント<映像の中の炭鉾>上映会のお知らせ 今野勉
- 7 事務局から

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 2013年度研究大会・総会の報告

13年度の総会は、4月20日法政大学市ヶ谷キャンパスで開かれた。

研究報告は、最初に藤田貢宗会員の「最近話題になっている隕石について」で、隕石は成分により次の3種類に分類可能で①岩石②岩石と鉄③鉄。隕石が地球に衝突して大規模な被害をもたらす確率は1万年に1回程度。大半の隕石は大気中で消滅するので、心配はいらないと言う。なお、隕石を購入する場合は、「重い」ことが重要だそうだ。

第2報告は中山喬央会員の「日本列島における金属文化発生の一考察」で、青銅製出土品（主に銅鐸）の鉛同位体の分析から古代日本列島の銅鉱山を推定したもので、太良（秋田）と神岡（茂住）の鉱石から製錬した銅が使われていると判定できると言う説だった。なお、古代に複数の鉱山、それも遠く離れた場所からの銅を混合して使用する理由についての説明はなかった。報告が銅鐸の成分分析という一般会員になじみが薄いものに加えて、報告者も分かりやすく説明する努力に欠け、会員の多くは未消化に終わった。

第3報告は20年ぶりに市原博会員が「オーストラリアにおける鉱業技師、鉱山支配人の人的資源形成」について報告した。まずオーストラリアの鉱山史を概観し、その上で日本の「学歴身分制度」にたいし、オーストラリアでは「実務経験に大きな価値」を置く点が特長。また、Minerが強い権利を持っている点も異なっていると説明した。

鉱山技術者の移入はヨーロッパ、アメリカなどからも活発に行われた。丸山もとこ会員から、「ウォートルスもヨーロッパ、オーストラリア、アメリカ（もちろん日本も）と渡り歩いている」と補足意見があった。

最後にAMHA(Australia Mining History Association)の19回カンファレンスが9月29日から10月4日までメルボルンから350km程の所にあるBeechworthで開かれると紹介があった。

最後は、土井徹平会員の「1910年代から30年代における北海道石狩炭田の労働市場－友子資料を用いた労働分析」で、初期には北陸からの坑夫が多く石狩炭田に移入し、その後自前養成が増加して行く過程を資料で跡づけた。

金属鉱山と石炭鉱山では、求められる技術の質が異なり金属鉱山から北海道の炭鉱に移動した坑夫がどのように石炭の採掘に対応したかなど個別炭鉱の事情と、その他の産業との比較研究も今後期待したい。

この分野は、一次資料が乏しく実証がしにくい貴重な報告だった。

遠田義則会員が足尾の新作写真を展示した。来年をメドに「足尾歴史館」で個

展を開催する予定。

総会は、村串仁三郎会長から、12年度活動報告、13年度活動方針案が説明された。会計報告は、久保敦子会計から12年度会計報告（総予算43万3602円）、13年度予算案（同53万3607円）の説明があり、いずれも原案通り可決成立した。

なお、村串会長から雑誌「金属鉱山研究」の投稿料について、「今年度は一応黒字の予算だが、嬉しいことに投稿が多ければ再び赤字に転落する可能性がないとも言えないので、もう一年様子を見て無料化を検討したい」と説明があった。

最後に人事は、現行どおり会長村串、会計久保、会計監査興野喜宣、事務局川俣が再任された。村串会長から、「若返り人事を進めるよう努力したい」と補足意見があった。

2 2012年度の会計報告について 久保敦子（会計係）

（前号に掲載された2012年度の決算報告は仮のものだったので、会計監査をうけ、総会で報告され承認された2012年度会計報告を掲載します。）

収入	繰越金	1,600
	会費	347,000
		(延べ57名×6000+5000)
	投稿料	59,000
	会誌買取他	26,000
	借入	100,000
	利子	7
	計	533,607
支出	印刷費(会誌など)	244,650
	郵送費	23,143
	事務費	8,315
	活動費(補助他)	15,440
	返済	100,000
	投稿料掲載料など未納	49,452
	繰越	92,607
	(通帳	42,059
	振替口座	50,548)
	計	533,607

「平成25年4月10日に監査を行った結果、上記決算は通帳、帳簿、領収書等正しいことを認めます。会計監査興野喜宣 印」

3 草倉鉾山の友子の墓について

菅井会員から以下のようなメールが届きました。編集子

皆さま

お変わりありませんでしょうか。この間の土日、たんぼぼ舎主催の柏崎刈羽原発現地視察（東京や各地の反原発活動家や市民、バス2台ほか）の案内人として行ってきましたが、その折、元『新潟日報』の記者で高校時代の同級生の片桐君から、龍蔵寺の友子の墓が壊されているという話を聞き、記事があつたら送るように頼んで来ました。それが今日郵便で届きましたのでスキャナでとって皆さまにお送りすることにしました。写真を見るとまったく無惨です。龍蔵寺の和尚は何を考えているのか、これでは史跡としての意味がなくなりますね。

とりあえず。では又。 菅井 益郎

佐藤一男氏からのメール

（菅井さんからのメールを佐藤一男さんに送ったところ、つぎのようなメールが返ってきました。）

佐藤一男です

昨日、草倉に参上しました。老僧の奥さんが小生と同じ年齢です。

詳細を聞き作業中の皆さんにお話を聞いてきました。

友子の子孫の皆さんがそれぞれ家庭を持ち菩提寺を持つようになり一括して墓碑をまとめるとのこと。墓碑の下石を5.5m四方の造りに入れ、その上に棹石を立て直して祭祀することのこと。

7月15日に慰霊祭を行うとのこと。当時の面影は無くなり、林の中を数日要して調査した資料が残されているので貴重なものになりました。

今月末には完成予定とのこと。息子の住職は近くのホームに勤務しているので会うことはできませんでした。

『新潟日報』の2012年5月6日の記事

阿賀野町向鹿瀬にある町史跡「草倉銅山坑夫の墓」で、同寺が町の許可なく墓石群を一つにまとめる工事を始めていたことが、5日までに分かった。同寺は「届け出を忘れた。申し訳ない」としている。工事が進み復旧は困難な状態で、町教育委員会は、町史跡の指定を継続するか今月中に審議する予定だ。

龍蔵寺の佐々木伸応住職によると、「坑夫の墓」は経年劣化が著しく、清掃などを行う檀家も高齢化しているため、これ以上の荒廃を防ごうと墓石群を一つにまとめて整理する計画を立てたという。草倉銅山を経営していた古河機械金属(東京)に要望していた費用援助が4月に決まったため、7月の供養に間に合わせようと、4月15日に着工した。

住職は「すぐに工事をしなくてはと思い、許可のことは全く頭になかった。本当に申し訳ない」と話す。町教委には事情を説明し、陳謝した。

町文化財保護条例では、許可なく現状変更した場合、元の状態に戻すように命令できるが、町教委は「工事が進んで以前の墓の位地が分からない」とし、工事はそのまま継続されるという。

町教委は寺側に顛末書の提出を要請。月内に文化財調査審議会を開き、工事後の「坑夫の墓」が文化財として価値があるか、指定の解除も含め諮問する予定だ。……」

4 企画展【坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭鉱をめぐる視覚表現】のお知らせ 菅井益郎

7月13日(土)より丸木美術館の企画展【坑夫・山本作兵衛の生きた時代～戦前・戦時の炭鉱をめぐる視覚表現】が始まります。〈展示期間：7/13(土)～9/8(日)〉

世界記憶遺産に選ばれた山本作兵衛の秘蔵の炭坑記録画を軸に、三井三池炭鉱の公式写真家・町田定明や明治期の筑豊の炭坑絵師・井上為次郎など同時代の多様な炭坑表現を紹介します。

原爆の図丸木美術館

開館時間 午前9時～午後5時

(12月～2月にかぎり午前9時半～午後4時半)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日) 8月1日～15日は休館日なし
年末年始 12月29日～1月3日

ツイッター: <http://twitter.com/#!/marukigallery>

marukimsn@aya.or.jp

<http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>

355-0076 東松山市下唐子1401

TEL:0493-22-3266 FAX:0493-24-8371

5 「足尾銅山:世界遺産登録を推進する会で記録映像上映 県・市・所有者、一体で取り組み訴え」

(毎日新聞 2013年07月04日 地方版から以下の記事を転載します。)

日光市の足尾銅山の写真などをインターネット上で公開している「足尾銅山・映像データベース研究会」が足尾町内の産業遺産をまとめた映像の試写会が、同市足尾町の足尾公民館で開かれた「足尾銅山の世界遺産登録を推進する会」の総会であった。

データベースに資料を提供した理事の小野崎敏さんが解説役を務め、「世界遺産登録に向けて県と市、所有者の古河機械金属が一体になった取り組みが必要だ」と訴えた。

映像はNHKの元記者、小出五郎さんらが中心となった同研究会が過去3年間、撮りためたもの。通洞選鉱所や宇都野火薬庫、浄水場などに加えて本山鉱山神社、松木溪谷での植林の様子なども映し出され、小野崎さんが、保存のポイントなどを説明。「皆さんの意見も取り入れ、仕上げたい」と結んだ。

また、小野崎さんからは、製鉄と石炭を中心とした近代産業遺産で世界遺産登録を目指す「九州・山口の近代化産業遺産群」の取り組みが報告された。新日鉄住金が制作した、八幡製鉄所を中心としたPR映像が紹介された。小野崎さんは「足尾だけでなく、別子や小坂など他の銅山跡と協力して登録を目指す戦略も必要ではないか」と問題提起した。



上映に先立って開かれた総会であいさつに立った日光市の前田博教育長は、本山坑など4カ所を国の史跡に指定するよう求めて近く申請することを明らかにした。

指定を目指すのは、足尾銅山の主要坑道で、1973年まで採鉱されていた本山

坑▽世界で初めて脱硫技術を実用化し、銅山のシンボル、大煙突が残る本山製錬所▽削岩機の動力源となる圧縮空気を作っていたコンプレッサーが現在も保管されている本山動力所▽足尾に現存する山神社の中で最古の本山鉱山神社一つの4カ所。所有者の古河機械金属の了解が取れ次第、今夏にも申請する。

市は2008年、暫定リスト入りを目指したが、落選。その際、リスト入りの条件の一つとして複数の国指定史跡が必要とされたが、宇都野火薬庫跡と通洞坑の2カ所だけだったことから、再提案に向けて充実を図っていた。

また、現在も使われている足尾キリスト教会を国の登録有形文化財に申請したことも報告した。【浅見茂晴】

6 イベント＜映像の中の炭鉱＞上映会のお知らせ 今野勉

■正木基presents1＜映像の中の炭鉱＞

日程：2013年8月3日（土）～9日（金） 一週間限定開催

時間：連日12:20～ 上映＋トーク

場所：ポレポレ東中野（TEL：03-3371-0088）

東京都中野区東中野4-4-1ポレポレ坐ビル地下

JR総武線東中野駅西口北側出口・都営大江戸線「東中野駅」A1出口から徒歩1分

上映スケジュール：

- | | | | |
|--------|-------------|---|---------------|
| 8/3(土) | 『女ひとり大地を行く』 | + | 今野勉トーク |
| 8/4(日) | 『地の底への精霊歌』 | + | 今野勉 × 正木基トーク |
| 8/5(月) | 『泣き濡れた春の女よ』 | + | 正木基トーク |
| 8/6(火) | 『女ひとり大地を行く』 | + | 萩原義弘トーク |
| 8/7(水) | 『地の底への精霊歌』 | + | 萩原義弘 × 正木基トーク |
| 8/8(木) | 『泣き濡れた春の女よ』 | + | 正木基トーク |
| 8/9(金) | 『地の底への精霊歌』 | + | 水島久光 × 正木基トーク |

料金：当日券のみ 一般1500円 / シニア1300円

4 事務局から

新会員の紹介

村松順二です。研究歴はありませんが、第二の人生のひとつのワークとして、郷里の佐渡金山の歴史、とくに近代の経営を勉強したいと思っています。そのため、鉱山のことを広く学びたいと思い、ネットで知り、入会させていただきました。よろしくお願ひします。59歳。新潟県出身。

研究会報告の募集と会誌の原稿募集

研究会報告の募集

総会の時にも問題を提起しましたように、今年は田中正造没100周年にあたります。しかし当研究会として、特に事務局として、研究会の企画を提案することができませんでした。その後、会員の意見を期待していましたが、特に提案はありませんでした。

研究会での報告希望があればご連絡下さい、また何かご提案、ご意見があればお寄せください。

会誌の原稿募集

会誌『鉱山研究』91号の原稿を募集します。

投稿者が固定的になっていますので、ぜひこれまで投稿の少なかった方々、これまで投稿していなかった方々の寄稿を期待します。

内容、論稿の形式は問いません。